

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 18日

事業所名 安八町立あすなるの園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に応じ、部屋の移動、物の配置を変えている。教材教具の刷新 ・集団療育で運動遊びをする際、狭さを感じる事はある ・療育時、子どもや職員の人数が多い時には、やや狭く危ないと感じる時がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を確保しつつ活動内容の工夫とスペースの更なる有効活用に努める
	②	職員の配置数は適切である	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べ、余裕は生まれたと感じる ・子どもの数、活動内容に合わせて職員数を調整している ・基準は満たしている 	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスから中庭へのバリアフリーが不十分 ・活動に応じて物の配置を変えている ・活動によって部屋を変えたり、物の配置を変えたりすることで、何をするのか分かるように工夫し、知らせている 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの児に応じた環境調整の工夫を行う ・情報伝達には視覚情報を積極的に活用する

					・重要なことは掲 示して知らせてい る	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環 境になっている。また、子ども達の活動に合わ せた空間となっている	4	1	・日々の消毒等を通 して清潔空間の維 持に努めているが、 活動内容によっては 空間面積が狭い ・療育終了後に、 床の清掃、消毒を 行っている ・空間除菌脱臭機 の活用	
業 務 改 善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参 画している	1	4	・全員での話し合 いの時間の確保	すきま時間を活用しP D C A サイ クルの実践を積み重ねる
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に 対して事業所の評価を実施するとともに、保 護者等の意向等を把握し、業務改善につ なげている	5	0		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け 評価表の結果を踏まえ、事業所として自己 評価を行うとともに、その結果による支援の 質の評価及び改善の内容を、事業所の会 報やホームページ等で公開している	5	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	0	5	・外部評価の検 討を行う	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	5	0	・療育スタッフやケ ース検討会に出 席し、情報を共有 している	引き続き、外部から講師を招き、 指導方法研究会や事例検討会等 を行い資質向上に努める
適 切 な 支	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、児 童発達支援計画を作成している	5	0	・分析の向上に努 める ・全職員で確認 し、意見を出しな がら作成している ・保護者の思いや 子どもの姿を基に 計画を立てるよう に意識している ・定期的に懇談を	

援 の 提 供					行ない、保護者の思いを把握するように努力している	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	・NCプログラムの活用	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1	・家族支援ではホームプログラムを通して具体的な支援の提案を心がけている ・ペアレントトレーニングについて学びを深め、力を育てたい	引き続き、具体的な支援内容を関係者間で検討し実施する
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	3	・主にリーダーが行っている。反省を踏まえ、サブリーダーで話して、次の療育に活かしている ・1月ごとの活動内容を計画書にて、書面で共有している	引き続き実施する
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・集団の子どもの様子から、遊びが広がるように発展させている ・子ども達の興味、関心に合わせて、様々な活動内容を取り入れられるよう工夫している	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	・年少、年中は集団の中に個別の時間を設けている	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担につ	1	4	・打ち合わせ時間の毎回の確保が難しい	時間を有効活用し早めの実施に努める

		いて確認している			・計画は決まっております、事前に打ち合わせをするようにしているが、不十分な時もある	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	・開始前の打ち合わせは行なうが、振り返りが不十分な場合がある ・気付いた点等を、集団計画の用紙に書き込んでいる ・書面にて情報を共有しているが、検証、改善につなげる時間を設けられていない	話し合い内容の記録をとり、次回に活かす
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	・毎日記録として残している	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	1	・支援機関（6カ月）中の見直しについては不十分 ・年2回行っている ・保護者との懇談、引継ぎ会等で保護者の思い、子どもの姿を確認し、共有している	半年に1度のモニタリング時期以外に、児の状況を随時把握し、必要な場合は速やかに計画変更を行う
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0	5	・サービス担当者会議は実施されていない	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	・関係機関と共に、引継ぎ会で情報共有を行なっている	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0	・定期的ではないが、随時連携している ・必要に応じて、連携をはかっている	

関係機関 関 や 保 護 者 と の 連 携		る			る	
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	4	体制整備をはかる	これまで医療機関等と随時情報共有を実施していたことを踏まえ、今後も定期的な連携ができるよう関係機関との調整をはかる
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	・引継ぎ会を行ない、情報共有をしている ・今年は、教育委員会の先生も参加された	
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	・引継ぎ会を実施している	
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	・共に研修に参加することはできているが、お互いの情報共有がもっとできたらとは感じている ・指導方法研究会で助言を受けたり、障幼研で公開療育に参加し、他の事業所の様子を見て参考にした	
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	0	・未就園児は、外遊びの時に、併設こども園に通う園児と交流をしている	
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	4	開催された場合は、参加している	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	・連絡ノートの活用や、月1回の懇談を通して行っている ・定期的に懇談を行ない、情報共有の機会を設け	

					ている	
	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプログラムを通して具体的な支援の提案を実施している ・その都度、対応法等については話をしているが、十分にできているとは言い難い ・ホームプログラムで、より具体的に伝え、達成できそうな内容を提示 ・家庭での取り組みについて共有しているが、ペアレントトレーニングまではできていない 	引き続き、家庭での対応法について具体的な提案を行う
保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始め、入園時に説明している 	
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・説明後、書類にサインをいただいている ・計画作成後、保護者に説明を行い、同意を得ている 	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度の懇談について、時間制限を設ける ・相談希望時には、迅速な対応を心がけている 	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、年齢別保護者懇談会を実施 ・未就園児に関しては、保護者のニーズに合わせて実施 	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱の設置 	

	保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している			・相談児には適任者が対応できるように、職員間で情報共有をしている	
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・毎月通信を発行している	
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意している	2	3	・更なる整備や体制作りが必要 ・記録の記入や、計画作成は職場で行い、個人情報を持ち出さないようにする	引き続き、細心の注意を払いながら取り扱う
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	・40周年記念事業に、卒園児を招待 ・今年度は地域住民に向けた行事等を行わなかった	年1回の行事『親子ふれあいデー』に卒園児を招待していた。コロナ禍の4年間は実施できていなかったが今後実施していきたい
非常時等の対応	④① 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	2	・マニュアルの周知、訓練については不十分 ・併設こども園の避難訓練に参加している	・各マニュアルは書棚に陳列してあるが周知が不十分のため努める ・非常災害時対応として、「我が家の避難グッズ」「我が家のタイムライン」を保護者と一緒に作成
	④② 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0		・
	④③ 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	・入園時、保護者からの情報を記載し、職員間で共有している	
	④④ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0		引き続き、年度初めに各児のアレルギー状況と対応についての一覧表を作成し、速やかな対応に努める
	④⑤ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	・事例発生後記入し、職員間で共有して再発防	

					止に努めている	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0		・虐待チェックリストで振り返りをしている	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、身体拘束等の適正化のための指針を策定し、委員会を実施 ・必要な場合は、説明・記載を行なう ・これまで計画に記載されたことはない 	必要なケースは今のところないが、今年度から設置された委員会で検討し、必要な場合は事前に保護者へ身体拘束について説明し同意を得て記載する